



2024.8.1 (木)
第5回例会
(通算3767回)

2024-2025 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第86代会長 高橋 直人
副会長 吉田 英一
幹事 東堂 光春
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
 0154-24-0860  0154-24-0411

2024-2025 年度
国際ロータリーテーマ



2024-2025 年度
R1会長 ステファニー・M.アーチック
第2500地区ガバナー
小谷 典之 (帯広西 RC)

本日のプログラム 会員卓話「グローバル補助金について」(プログラム委員会)

次週例会 講師例会「若者の熱量で地域を盛り上げる」(プログラム委員会)

- ロータリーソング：四つのテスト
- ソングリーダー：横田 英喜君
- 会員数 104名
- ビジター 澤田 善吉君 (岐阜城 RC)
- ゲスト

会長の時間

高橋 直人会長

お食事中の方はお続けください。皆さま、こんにちは。

フランス・パリでオリンピックが始まり、会員の皆さんも寝不足な毎日が続いていることと思っておりますが、私も同じく朝4時起きにもかかわらず、ジャパンの応援でテレビから離れられない日々が続いています。阿部詩さんの初戦敗退にもらい泣きし、初老ジャパンの銅メダルに感動し、チーム JAPANの活躍にパワーをいただいております。



さて、本日のプログラムにリンクする話です。7月11日に、釧路プリンスホテルで2500地区V Tチームの歓迎会が開催されました。私の勉強不足で「V Tチーム」の意味が分からず、参加する前に少し調べてみました。V Tとは Vocational Training Team、職業研修チーム (VTT) の略となります。専門職業人のグループが海外に赴き、また海外より招き、スキルや知識を学び、海外の専門職業人へスキルや知識を提供するものです。

2500地区では2013年にR I 3330地区タイのブーケットへ歯科医療チーム5名の派遣と受け入れを行っております。また、2016年には同じくタイから環境問題をテーマに、水処理、廃棄物処理のV Tチーム5名の受け入れを旭川市、北見市に廃棄物収集運搬システム、リサイ

クル設置水道上水場などトレーニングプログラムを行いました。

2018年にも、R I 3300地区のマレーシアでも事業を行っております。こちらは地区補助金、グローバル補助金を利用して行っております。

今年度は、モンゴルR I D3400-500地区からV Tチームを受け入れ、基本教育と識字率の向上を行う予定です。

歓迎会では久木パストガバナー、鶴見パストガバナー、佐渡ガバナーエレクトのご挨拶を聞き、またモンゴルの小学校理科教師の方々のお話を聞き、大変感銘いたしました。当クラブも微力ながら協力をしていきたいと思っておりますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

本日も楽しい例会にして行きましょう。以上で終わります。

幹事報告 東堂 光春幹事

こんにちは。8月のロータリーレートは1ドル154円となっております。第2回理事会をこの後、13時40分から3階・日の間で行います。理事の方は参加をお願いいたします。

先週の夜間例会の時に、マグネット式のロータリーバッジを落とされた方がいらっしゃるかもしれないので、お心当たりの方は私の所まで来ていただければと思います。

以上が幹事報告です。

挨拶 岐阜城ロータリークラブ 澤田 善吉君



皆さん、こんにちは。釧路ロータリークラブさんにロータリーの勉強にまた来ました。毎年と言うとおおげさですけど、コロナの時を除い

て、いつも北海道にお邪魔させていただいております。この冷涼、と言うと失礼ですけど、涼しさが私にとっては一番のごちそうです。その他は望むべくもありませんが、ロータリーで勉強をさせていただく以外には何も要望をかけておりません。

私だけ、自分だけ、今だけ、お金だけと、なんでも「だけ」が入る時代に、いま私たちはいるわけですけども、世界情勢から判断して、そうならざるのかなど。下手をすると自分もイカレテしまうと。何か毎日毎日、中東情勢だとか経済にしても、株価をとっても、パーツと上がったと思ってもまた昨日も下がりました。誰がどうやっているのかさっぱり分かりませんが、いずれにしてもロータリーライフを楽しみにさせていただいております。大変ありがとうございます。

どうもありがとうございました。

新入会員紹介 木下 正明会員

皆さん、こんにちは。新入会員の鈴木正信さんをご紹介させていただきます。

日本銀行釧路支店の支店長さんにご就任されております。前



任の田村さんは1年という短い時間でヨーロッパにご栄転になりました。鈴木さんが帯広から異動をされて着任をされております。帯広時代は2年間、帯広ロータリークラブに入られておりました。私には帯広ロータリークラブに友人がおりまして、その方から「とても気さくで、田村さんよりもさらに皆さんに溶け込むのではないかと」言われておりました。

最近の日本銀行の支店長には釧路のことをよく思っていて、いろいろな後押しをしてくれる分析などをしてくださっておりますので、鈴木さんは東北北海道の十勝におりましたので東北北海道全体を後押しして下さるのではないかと思います。

ご家族は奥様が東京におられまして、男のお子さんが二人おります。お一人は社会人、もう一人は大学4年生ということで、もうすぐ片付いて肩の荷が下りるのではないかと思います。ご本人の年齢は昭和45年生まれで、今、55歳で油が乗り切ったいいところ。ゴルフはされるということです。大学時代はゴルフ部所

属だったので、皆さんはコテンパンにやられるのかと思います。本人は謙遜してハンディはありませんと仰っていますが実態が分かりませんのでゴルフをされる方は試していただければと思います。

帯広ロータリークラブは釧路ロータリークラブと趣が違いかもかもしれませんが、フレンドリーな仲間がたくさんおりますので、まずは例会に出て、夜間例会でも飲んでいただいて友達意識をどんどん醸成していただければありがたいと思います。

では、ご本人からご挨拶をお願いします。

新入会員のご挨拶

日本銀行 釧路支店 鈴木正信支店長



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました日本銀行釧路支店の鈴木と申します。よろしくお願ひいたします。ご紹介いただきました

ように、私は2年ほど前に帯広とのご縁をいただきまして、2年間ですが同じ2500地区のロータリアンとして奉仕活動に参加させていただくとともに、ロータリアンの皆さまにはすごく温かく迎えていただいて公私ともに楽しく過ごさせていただきました。

2年経つと東京などに戻ることが前提になっていると思っていたのですが、想定外ではあるのですがホレ込んだ道東にまだいいと辞令をいただきましたので、これから2年間、ロータリアンとしてさらに奉仕活動に邁進していきたいと思っておりますのでご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

本日はありがとうございます。

すみません、私、歴史と伝統のある釧路ロータリークラブにご入会を認めていただきましたことに厚くお礼申し上げます。緊張して忘れてしまひまして申し訳ございません。

歓迎の言葉と所属委員会の発表

高橋 直人会長

鈴木会員、入会、おめでとうございます。一言ご挨拶させていただきます。

6月に転勤された田村さんの後任です。田村さんは1年ではありましたが釧路ロータリークラブをエンジョイされておりました。鈴木君もぜひ楽しんでください。

当クラブ会員は仲が良くて、先輩後輩の壁もなく気安く話ができる素晴らしいクラブです。委員会活動も活発ですので、委員会にはぜひ参加してたくさんの交流をしてくださいようお願い申し上げます。

ご存知かと思いますが、ロータリーでは出席は義務

と言われておりますが、出席は義務ではなく権利と
思、これからの時間を許す限りロータリーに出席を優
先して参加してください。

最初の一カ月は知り合いも少なく、辛いことと思いま
すが会員全員で歓迎いたしますのでよろしくお願
いいたします。

鈴木会員の委員会はクラブ会報・雑誌委員会に配属
いたします。委員長は今日、欠席ですがよろしくお願
いいたします。

■本日のプログラム■ 会員卓話「グローバル補助金について」

プログラム委員会 瀧波 大亮委員長

皆さん、こんにち
は。プログラム委員
会の瀧波です。本日
も一日、よろしくお
願いいたします。



本年度の2500地
区グローバル補助金
チームに荒井君がコミットメントして大活躍をされて
います。

この機に私たちメンバーも今一度、グローバル補助金
についての知識と見識を深めるとともに、私たちの今
後のロータリー活動でグローバル補助金が活用できな
いかどうかの機運を高める機会になればと思っております。

それでは、チームリーダーの荒井君、どうぞよろし
くお願いいたします。

2500 地区グローバル補助金チーム

荒井 剛委員長



皆さま、こんにち
は。お昼の30分と
いう長い時間をいた
だきまして、聞いた
ことはあるけど中味
がピント来ないと思
います「グローバル
補助金」をテーマにした会員卓話ということでお付き
合いただければと思います。

グローバル補助金の手続・内容は、『My ROTARY』
のグローバル補助金ガイドという分量の多いガイドが
ありますので、細かく勉強をしたい方はこのガイド
を見ていただければと思います。ただ、見る気が失せ
るほど量が多いですが、これを最初にご紹介させてい
たいただきます。

なぜ私が、2500地区のグローバル補助金のチーム
リーダーになっているかといいますと、10年前の5

月に初めてロータリーの国際奉仕事業としてタイの
プーケットを訪れたことがきっかけです。その時は小
船井さんに一緒に行っていただきました。

プーケットはテレビで見るとリゾート地で、娯楽街が
たくさんある所です。少し裏に行くとも今でもそうで
しょうが貧困街があります。ミャンマーからの労働難
民と呼ばれる人がタイのプーケットに入って、プー
ケットではリゾート地の建設ラッシュがあったので、
その建設労働者として働かされているのです。

そのミャンマーからの労働者は、豚小屋のような所
に住んでいます。そこにいる大人たちは、日中は働い
ているのですが、小さい子どもたちはタイ語も話せな
い、英語も話せない、タイの住民でもありません。全
く教育は受けられないところを救ってあげようと、キ
リスト教系のボランティア団体が教育支援していまし
た。そういう所を視察したのがきっかけでした。

その10年前にタイに行き、プーケットの惨状を見
ました。当時どうして行ったのかは分からなかったの
ですが、今のグローバル補助金の元となる事業があっ
たので、それを使って少しでも支援しようというのが
スタートでした。

そこから毎年のように関わっていて、5・6年前から
地区のグローバル補助金の委員になっております。今
年からそのグローバル補助金のリーダーになっており
ます。その関係で、少しはグローバル補助金の内容、
どのようなものか、グローバル補助金のお金がどこか
ら来ていくくらいあるのか、良く耳にする「地区補
助金」との違いがフワーツとしていると思うのですが、
グローバルと言うから補助金が多いのではないかと
いうイメージだと思います。大きくは間違っていない
が、手続き・要件がだいぶ違っていますので、そこを
分かりやすくできればと思ってお話をさせていただきます。

このスライドは、これまで2500地区でグローバル補
助金事業として行われて来たことが挙げられていま
す。持続可能な事業として世界で良いことをしようと、
ロータリー財団が世界中から寄付を募っています。そ
の寄付を原資として、世界中で良いことをしようと
なったのです。

これらを全て読み上げる必要はありませんが、
2500地区ではタイだったり、イギリスだったり、イ
ンドネシア、フィリピン、いろいろな国を対象として
グローバル補助金事業を行っております。どういう分
野の事業なのかが大事です。ロータリーの重点分野と
言われている7つの分野です。平和構築と紛争予防、
結構多いのが疾病予防と治療、水と衛生、これまで浄
水器の設置などをお聞きになったことがあると思いま
す。重点分野の水と衛生事業に関わる事業として行っ
ております。また、疾病予防と治療についてもここ数
年多いのが、タイの郊外の病院に医療機器を提供した

りしています。このような重点分野のどれか1つに入ることが大事になるのがグローバル補助金です。

このグローバル補助金を用いた活動は、7つの重点分野の1つに関わる事業のほかに、冒頭に高橋会長からも話がありましたモンゴルとの関係で「V T T」という職業研修と呼ばれているもの、海外から職業研修のために日本に来て一定の研修を受けていただく時の費用に充てるのにもグローバル補助金が使われています。

もうひとつは、これもグローバル補助金の使い道の大きなひとつになっていますが、留学生の奨学金です。留学生といっても、大学ではなく大学院になります。これはこれまで2件くらいしか活用されていませんので、あまり認識されていません。ここ5年くらいでは3年前にイギリスのノーリッチ大学の大学院に奨学金として1年分くらいの学費を支援したことがあります。

今日は奨学金ではなく7つの重点分野、人道的プロジェクトに関わるグローバル補助金のことをお話したいと思います。

では、グローバル補助金は地区補助金と何が違うのでしょうか。具体的にグローバル補助金はどのようにして進めるのかについて話せる限りにおいて話します。地区補助金は同じ補助金です。補助金としての性質は同じです。では、補助金とは何ですか。補助金はどこからお金がもらえるのでしょうか。この補助金の原資は、ロータリー財団から下りてきます。ただ、下りてくるといっても、元々、ロータリー財団へはこちらが寄付をしているので、結局は皆さま、あるいは他の団体と個人からの寄付を元にしたロータリー財団から戻ってくるのです。そこから払われるという意味で補助金です。その意味では地区補助金もグローバル補助金も同じになります。

ここを説明すると毎回、ややこしくなるのですが、ここを説明しないとグローバル補助金の説明をしたことにならないので説明させていただきます。

財団への寄付金ですが、シェアシステム (Share System) と呼ばれるシステムがあります。

ロータリー財団に寄付されたお金は、3年間ロータリー財団で運営します。運営された3年後に、3年前に地区から寄付されたお金が地区に戻ってきます。戻ってくるときに5パーセントの管理運営費を除いた95パーセントが戻ってきます。国際財団活動資金(WF)・もう半分が地区財団活動資金(DDF)です。グローバル補助金では、WFとかDDFという言葉が時々出てきます。

大まかなシステムとしては、2500地区内の皆さんがロータリー財団に寄付をした金額が3年後に戻ってきます。その戻ってくるお金を元に補助金が使われます。すると、2024-2025年に使う補助金の原資は何かと

いうと、3年前の2021-2022年度に皆さまが釧路ロータリークラブを通して、あるいは個人的に2500地区に寄付をしていたものが、2500地区からロータリー財団に寄付されたものが戻ってくるお金です。

これを絵にしてみます。3年前に2500地区から20万ドルの寄付をしました。それが3年後の今年に戻ってきます。20万ドルがどのようにして戻ってくるかですが、5パーセントの管理運営費を除いた半分ずつが地区財団活動資金(DDF)に9.5万ドル、国際財団活動資金(WF)に9.5万ドルに分けられます。

この「分けられる」にはどんな意味があるのかというと、地区財団活動資金の、9.5万ドルをどのように使うのかを地区が決められます。20万ドルの内の9.5万ドルが地区財団活動資金に戻ってきたということは、2500地区が9.5万ドルをどう使っているかを決められるのです。残りの9.5万ドルは国際財団活動資金(WF)に行っています。こちらは国際財団活動資金でロータリー財団に用途が決められてしまっているので、3年前の寄付金が戻ってくると言っても、地区に裁量があって使えるのは、47.5パーセントしかありません。すると、「WFに行った47.5パーセントが使えないのではないか」という疑問があるかもしれません。そんなことはなく、このスライドのWFの下の方に「グローバル補助金プログラム」がありますが、この「グローバル補助金プログラム」にWFから自動的に上乘せされるシステムがあります。DDFでグローバル補助金として一部を使うと、その一部がWFから上乘せされますのでWFからのお金を使っているということになります。

当地区ではどのように使っているかを申し上げます。仮にDDFに9.5万ドルがあるとすると、このうちの50パーセントが地区補助金として使うように回されます。昨年度当クラブでは「釧路湿原の散策」の補助金として使われました。少し前は「数学検定」も地区補助金として使いました。この地区補助金はDDFの「地区として半分を使える」という中から支出していることになります。

残ったものがグローバル補助金の一部として使うことになります。ここ数年を見ていると、当地区で皆さまからの寄付が集まって、計算すると20万ドルくらいなのです。グローバル補助金として当地区が使えるDDFは約3万ドルになります。3万ドルを使えるほどのくらいの件数をグローバル補助金事業に充てられるかです。これも目安がありまして、1プロジェクト当たり1万ドルと言われていましたので例年、3件くらいの3万ドルのグローバル補助金事業が当地区で行えることになります。行われていない年もありますので、その場合はDDFが繰越されます。今年の場合は、年間の3万ドルに繰越分を入れると約5~6万ドルが

使えると言われていますので、5～6件くらいは使える可能性があります。

先ほどのWFがどういう役割を果たすのかというと、グローバル補助金としてDDFから1件1万ドルを使ったら、自動的にWFから上乘せされます。何年か前までは100パーセント上乘せされていましたが、規定が改正されて80パーセントの上乗せに減ってしまいました。現状ではDDFとして、あるプロジェクトに1万ドルを使うと自動的に1万ドルの8割にあたる8,000ドルが上乘せされる、となります。

難しい図かもしれません。地区で財団セミナーとか地区補助金管理セミナーでこれを説明しても10分しかないのとでも伝わりにくいのです。今日は時間がとれたのでもう少し細かく説明させていただきました。地区補助金との相違点をもう少し見てみます。大きく分けて事業自体の予算規模。どういうことかということ、グローバル補助金事業として行う場合は事業予算として3万ドル以上が必要だと言われています。3万ドル、今のレート150円で450万円。1事業で450万円クラスの事業でないともそもそも使えないことになりません。

では、地区補助金はどうかということ、地区補助金の対象となる予算規模はありません。現実的には40～50万円くらいの事業に地区補助金の申請をしていると思いますが、ルールとしては地区補助金の予算規模はグローバル補助金と違ってありません。グローバル補助金については3万ドル以上の予算組をしてくださいとあります。

次に、海外パートナーの存在は、グローバル補助金については必ず必要になります。ここが、ハードルが高くなっているところかもしれません。その結果、海外パートナー・ロータリークラブとのグローバル補助金の申請・承認から贈呈式に至るまで、日々のやり取りをしないといけない問題があります。普通は英語でのやり取りになりますから、一定のハードルが出てしまいます。

さらに違う点としては、補助金の割合と申請時期が違います。どういう意味かといいますと、グローバル補助金については、3万ドル以上の事業でないダメだと話しました。ここは簡単に話をするために、3万ドルの事業があるとします。この事業をする時にどれくらいの補助金が出るのかということ、ほぼ補助金で賄うことができます。裏を返せば、そのグローバル補助金に参加しようとするクラブがあった時、そのクラブの持ち出しの金額がすごく少ないのです。ほぼ補助金で賄えるからです。

一方の地区補助金は、地区のルールがあります。例えば、50万円、100万円の地区補助金事業を計画して補助金を受けるとして、地区補助金の4割か6割か、その数字を忘れてしまいましたが全額は補助されませ

ん。湿原の探索ツアーや数学検定についても、一部は地区から地区補助金として支出されますが、残りについてはクラブが独自に負担をしなければなりません。結果的に、事業自体の予算としてはグローバル補助金の方が大きいのですが、クラブの負担を見るとグローバル補助金のほうが少ないのです。つまり、少ない負担で大きなグローバル補助金に参加できるのです。大きな国際奉仕事業に参加できるというのがグローバル補助金のすごくいいところと思っています。

このようにグローバル補助金と地区補助金の違いもそうですが、グローバル補助金としては、7つの重点分野の1つであること、予算として3万ドル以上の規模であること、そして海外ロータリークラブの存在が必要、そのほかに実施する国側のロータリークラブと援助する国側のロータリークラブの両方が参加認定資格を受けている必要があります。

その参加認定資格です。これは毎年、地区で行われている補助金管理セミナーに参加しなければなりません。前年度に参加していなければ、次年度に補助金申請ができません。昨年度は10月22日に実施されておりまして、当クラブは参加していただいておりますのでクリアしております。また、地区との間で約束を守りますという「クラブの覚書」を交わして、これにサインして提出します。これについても当クラブは提出済です。

それ以外に何か条件がありますかということ、当地区独自の要件として、クラブでグローバル補助金プロジェクトに参加しようとする場合には、必ずクラブから1,050ドル以上の現金を出してください。1,050ドルは15万円くらいです。人数が多いクラブであればあるほど、一人当たりの負担は極めて少ないです。100人くらいいると、1人が1,000円くらいです。それくらいの負担でグローバル補助金に参加することができます。

ただ最近、財団委員会地区の委員長・副委員長と話していますが、この要件がもう少し拡張される可能性が出てきています。支出しないといけない現金はこれくらいでもいいかもしれませんが、例えば地区では補助金管理セミナーの他に財団セミナーもやっています。補助金管理セミナーに参加して、財団セミナーには参加しないクラブがチラホラみられています。それは良くないということで、両方に参加しなければ、クラブとしてグローバル補助金プロジェクトに申請しようとしても、「それは認めるべきではない」という意見も出てきて、そのようになる可能性も出てきていますので今後の動きに注意しなければいけません。

次に実際にグローバル補助金を行おうと思った時に、3万ドルの予算をどのようにして確保するのかです。具体的に見てみます。うちのクラブがグローバル補助金事業に参加しようと思った場合です。援助国日本の

2500 地区の D D F、1 プロジェクト当たり 1 万ドルの範囲で認められますので、1 万ドルを地区から出してもらいます。1 万ドルに 80 パーセント上乘せしてもらえますので、この時点で 18,000 ドルです。3 万ドルにまでいっていませんのでどうするかです。例えばタイに援助する場合、タイ側も地区の D D F から拠出していただくことも可能です。ここでは 5,000 ドルを出していただくと、それに 8 割が上乘せされ、9,000 ドルになります。合せて 27,000 ドルです。まだ 3 万ドルに 3,000 ドルが足りません。この場合は、それぞれに現金を出していただきます。うちから 1,500 ドル、タイのほうからも 1,500 ドルを出すと 3 万ドルに達します。この方法でいくと、当クラブから支出するのは、たった 1,500 ドルとなります。このようにしてグローバル補助金の予算を組んで進めて行くこととなります。これは、昨年行われたグローバル補助金事業、当クラブではなく北海道 2500 ローター E クラブが参加したグローバル補助金事業です。この時は予算が余っていたということで、1 万ドルではなく 12,000 ドルの D D F が拠出されました。E クラブからは現金 1,050 ドル、そして 3300 地区から D D F として 5,041 ドルを出していただきました。2500 地区と 3300 地区から出された D D F に対する 8 割が上乘せされて 3 万ドルを超えて、3 万ドルを達成しました。こういう流れになります。「どうやって相手国を探すのですか」という質問があります。これは、大きく分けて 2 つあります。ひとつは所属クラブを通じて、つまり、ご自身がご自身の経験とか付き合いで外国の特定のロータリークラブとつながる。あるいは、所属クラブが外国のクラブと姉妹クラブとなっている場合は、そのクラブを通して事業を模索することがあります。もうひとつは、地区を通じてというものがあります。基本的にこちらのほうが多いです。グローバル補助金に参加したいと言っても、相手国が分からない場合には「地区を通して参加したい」という声が上がってきます。毎年、地区にはいろいろな所から「グローバル補助金をやってくれないか」という申し入れがありま

す。その申し入れがあった時に、「グローバル補助金をやりたい」と手を挙げているクラブに仲介をして参加していただくことがあります。

例えば、当クラブが「グローバル補助金をやりたい」と手を挙げると、地区に提案のあったグローバル補助金のうち、いくつかを紹介して参加することが可能かなと思います。

うちのクラブはいくつグローバル補助金を行って来たのかを簡単に説明します。

伊貝会長年度の時には、カンボジアでの浄水器設置事業。これはグローバル補助金となる前の事業でした。

次が、2017 年の木下会長年度の時は、タイのプーケットに行って、浄水器を設置する事業。

次が、2018 年の邵会長年度の時は、タイのカンチャナブリに行って、結核予防キャンペーン事業を行いました。

それぞれは、その時に報告をさせていただきました。今日は時間がないので、過去に釧路クラブが行ったグローバル補助金事業が 3 つありますとだけお伝えします。

過去の映像を流しています。懐かしい写真が出てきました。この時も、10 数人でタイに行ってなかなか面白かったと思っています。

最後に、グローバル補助金事業への参加のお薦めを話します。私自身が感じていることですけれど、1 回でも参加することによって自分の大きな経験や財産になります。ロータリアンとして国際奉仕に関わっているという意識が芽生えることがあります。行った先の、例えば、行ったタイの国民に対して、タイの政治に対してすごい興味を持つことがあります。何よりも、参加するとしたときのクラブの負担する金額が少ないです。ひとりでも多くの方がグローバル補助金事業に興味を持っていただいて、当クラブとしても新しいグローバル補助金事業に参加していただければと思っています。

以上、ご清聴ありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 荒井 剛君 無事に目標通り湿原マラソン 30 キロ、3 時間切りで完走しました。本日はグローバル補助金についてお話をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。
- 東堂 光春君 娘がインターハイ女子サッカーに出場し 1 回戦見事に勝ちましたが、準々決勝で敗れましたが全国ベスト 8 になりました。

今年度累計 60,000 円